

四谷の

千枚田だより



第 117 号

六月一日、今年で八回目となる「お田植え感謝の夕べ」灯そう千枚田」を連谷お助け隊主催で行う。

当日は千五百本のロウソクを作業道(景観路)に並べ幻想的な姿を醸しだす。日々、厳しい棚田の保全に費やす耕作者を労う共

に、地域の誇り「四谷の千枚田」を校区一体になり保存・継承することを視野にお助け隊が無い知恵を絞りながら毎年「ああだ、こうだ」言いながらも楽しい催しを捻り出してくれる。
連谷小学校全校児童五名のコー

「お田植え感謝の夕べ」

灯そう千枚田

6月1日(土)午後7時から



連谷お助け隊

協力：愛知県ふるさと指導員

ラスや「こども陣太鼓」などが演じられ、催しに華をそえる。

お助け隊リーダーは「無い銭でやっている。バザーなどの売上金に少しでも協力して頂き、毎年、開催していきたい。また、地域の人々に多く参加して頂き校区の絆を深めたい。」と、お助けを願っている。

小水力発電完成式

東日本大震災、福島第一原発事故を転機に自然再生エネルギーに対する期待を大きくさせている。水は風や太陽光のように量や強さの急変が少ない。

愛知県では COP10 の里山や田園自然再生コンクール大臣賞受賞等々環境に重視、貢献する「四谷の千枚田」を選定。ふれあい広場に愛知県第一号の小水力発電装置を設置し、この、六月一日、大村知事、永田副知事(東三河総局)、地元峰野県会議員、穂積市長、愛知県農業用水小水力発電推進協議会神谷会長及び地元役員等々を招き、県主催で完成式を行う。

この施設、四谷の小水力発電の名前は連谷小学校の児童五名が感性とアイデアで命名される。

田植え

・五月九日、豊橋調理製菓専門学校一年生三十名は「四谷の千枚田」を圃場に田植えを行った。

同校は調理、製菓のプロを目指す生徒たちに食の原点でもある米づくり（一粒の米のできるまでの過程）を通し、学ぶことを目的に田の草取り、稲刈り、脱穀。また、地域料理の実習などを織り交ぜての体験学習を市地域整備課、小山舜二の指導で行う。



・五月十一日、愛知東農協主催の「子ども農学校」に参加する六十五名はあいにくの雨と雲海の中、高橋庄一（顧問）の指導で田植えを行った。



この、数分後には雲の中で全く見えなくなった

・五月十二日、「棚田の楽耕」のメンバー四家族十二名は耕長の三枚の田んぼを植えた後、付近の田んぼの補植までこなし、定番の地元産の美味しい空気とイノシシ料理を堪能した。

・五月十五日、連谷小学校児童五名は学校田で田植えを行う。例年、カメラマンやテレビ取材で賑わいをみせる。

・五月十八日、県立新城高校農業クラブの生徒四十名は原田英史（理事）の指導で田植えを行う。

視察

① 五月一日、峰野地元県議・かわしま太郎県議（瑞穂区）は「あいち森

と緑づくり」の一期五年間の結果と成果の把握、また、継続についての知見を得るため訪れ、（舜が対応した。舜は、国が奨励した森林施策も木材の低迷から個人管理ができなく放置林化しており、山崩れ等の災害が懸念される。また、保水力も乏しく降った雨は濁流と化し、三河湾や伊勢湾の赤潮、苦塩の発生要因にも繋がる。大きくみると湧き水の減少や枯渇までに至っていることや環境保全（生物多様性）等々、中山間を活かす施策「あいち森と緑づくり」税の必要性と継続について地域に生きる人々の思いを代弁した。

② 五月九日、小川副知事は県内農林水産関係現場視察を行った。当地においては「森と緑づくり事業」で実施予定の四谷地内における公道沿いの人工林の間伐現場（スギ・ヒノキ約十五鈴本年度実施予定）及び四谷の千枚田ふれあい広場に中山間ふるさと・水と土保全対策事業により整備中の小水力発電工事現場を訪れ、地元として小山舜二が対応した。

環境整備活動のお知らせ

あいち森と緑づくり事業

・五月二十五日（土）、方瀬集落を中心に沿道の整備活動の実施。

・五月二十六日（日）、点灯式・灯そ

う千枚田を視野にふれあい広場、千枚田周辺の草刈り作業の実施。

保存会総会

平成 25 年 5 月 11 日 於:連谷会館 19:30~

定例総会であり、保存意識の高い会員で明るい兆しがみえる。大きな問題点もなく議題のすべてがシャンシャンと議決した。

役員及び顧問

会 長	小山舜二	副会長	高橋孝行				
理 事	小山廣一	高橋伸治	今泉雅男	村雲伸一	林 義明	原田英史	
顧 問	高橋庄一	小山泰弘	会 計	松下 誠			
会 員	丸山一虎	金古浩一	夏目宏一	梶村兼男	稲熊富平	今泉 徹	
	古田和男	小山傳治郎	小山秀夫	小山柳二	原田武典	丸地光世	
	稲熊良隆	原田 勇	河西 忍				

行 平成二十五年五月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二